

鳥かた

No.15

1978年6月



財団法人
鹿児島市動物公園協会

飼育実習を終えて

鹿児島県立短大二年 宮田千穂



現在、「動物」といったら、おそらく、ペット化された動物、檻の中の動物、食料としての動物しか、思い浮かばないのではないのでしょうか。また、動物の天国と言われているケニア、タンザニアでさえ、今、多くの問題を抱え、悩んでいます。

かつては、人間などいなく、この地球は彼らの物だったのです。それが、どうして、このように変わってしまったのでしょうか。まず、人類の出現です。彼らは、どの動物にも負けないくらい強いなわばり根性を持っていました。そして、やがて彼らは道具を使うようになり、文明を開発させていきました。文明開発、これは、驚くべき速度で、自然を破壊してきました。これが、動物の中で人間だけが異端者とみなされている理由でしょう。そして、はっと気づいたとき、もうそこには動物なんて、数える程しかいなかったのです。

それから、「動物保護」ということばが生まれ、叫ばれてきました。しかし、「動物保護」とは、単なる動物の保護ではないのです。彼らの野性さを保つ上で初めて、真に彼らを保護するといえるのです。

故に、この困難な「動物保護」を達成させるためには、多くの人々の、同情と協力を必要とするのです。そのためにはまず、動物を間近に見て、あるいは接触し、彼らを理解することです。そして、動物が、若しくは自然が我々に与えてくれるところの、神秘的な心の安らぎを十分に汲み取り、彼らの貴重さを認識することです。

たぶん動物園とは、そのような目的から成立したのではないのでしょうか。とすれば、動物園の存在価値は今後更に高まっていくでしょう。動物園の真の発展を期待すると共に、約一ヶ月間、実習生としてお世話になったことをここに感謝致します。

表紙

ヘラサギ (Japanese Spoonbill)

コウノトリ トキ科

昔は日本にも冬鳥としてたくさん渡来していたらしいが、近年は少なくなっている。雌雄同色でくちばしと脚は黒色。沼地でヘラ状のくちばしを左右に動かして小魚、カニ、タニシなどを食べる。当園のフライングケージでは毎年自然ふ化している。ふ化日数は約3週間。

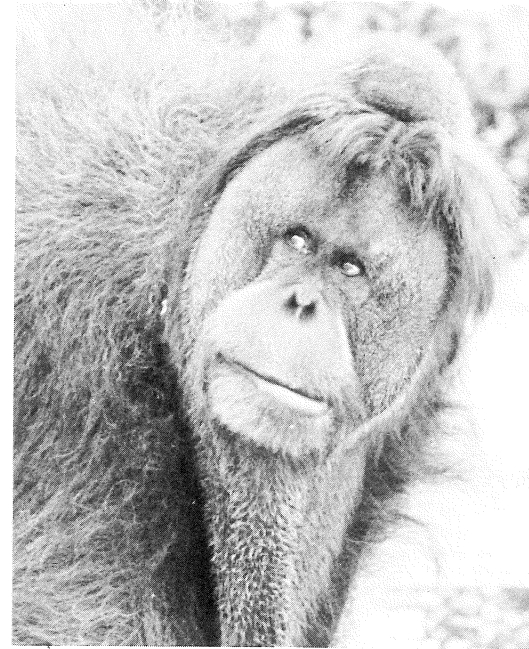
行事

- 6月7日 計量記念日
ミゼットポニーの体重あてクイズ
- 6月15日～7月15日 動物愛護標語募集
- 7月下旬 動物スケッチ大会
- 8月下旬 サマースクール(1日飼育係)
- 9月20日～9月26日
動物愛護週間
児童作文募集、動物慰霊祭

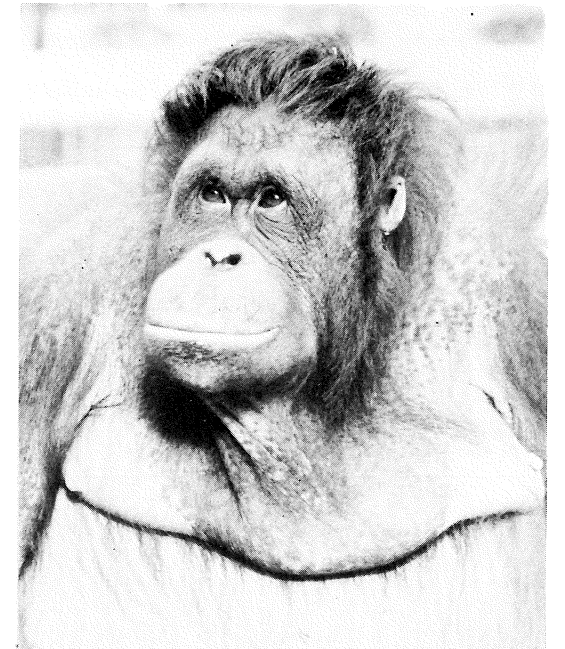
飼育動物数(昭和53.5現在)

ほ乳類	79種	346点
鳥類	87種	724点
は虫類	4種	15点
計	170種	1085点

私たち結婚しました オランウータン



花むこ ピック君 15才 体重約 150kg
昭和39年東京オリンピックの年来園



花よめ モンちゃん 10才 体重 75kg
昭和48年8月来園 当時体重 20kg



ケーキにナイフを入れるモンちゃん

長かった3年間のおり越しの見合いを終え2月10日飼育担当の久永利雄技師の仲人によって結婚式を行ないました。

新婦のモンちゃんは、ウェディングドレスに身をつつみ三々九度の牛乳入りのさかずきをかわし合い、ウェディングケーキにナイフを入れるなど、神妙な面持ちでしたが、新郎のピック君はおりの中で鉄柱にぶらさがってぐるぐる回るなど落ち着きのなかった様子でした。その後静かな新婚生活を過ごしており、この数少ない珍獣の二世誕生が待たれています。



3月16日仲間入りしたミゼットポニーの愛称を春の動物公園まつりの期間中募集しましたが、オスはロッキー君、メスはポニーちゃんに決まりました。子供の日に発表があり、名付け親になった友だちには賞品が贈られました。ミゼットポニーは南アメリカ生まれの背高80cmたらずのかわいい馬です。仲良くして下さい。このほか、子供の日にはマジックショー、プレゼントショーなど数多くの催しがありおおぜいの良い子たちで一日中にぎわいました。

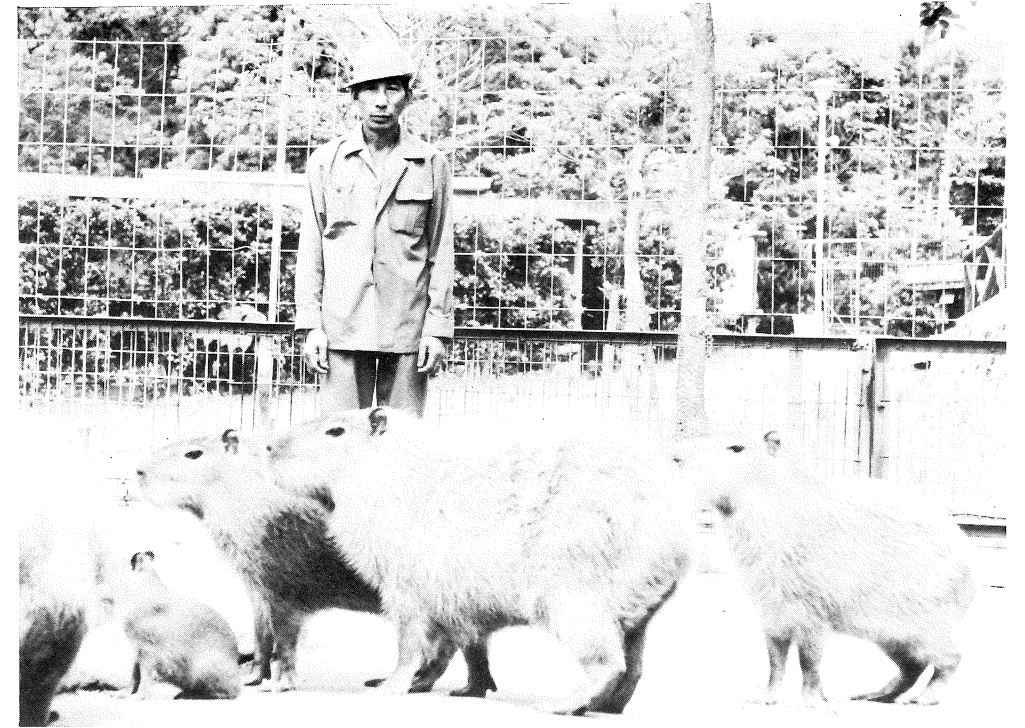


世界中の馬の写真などを集めたパネル展が園内子供図書館で開かれました。写真のほかサラブレットの骨格標本、シマウマのはく製、てい鉄や古代から現代までの馬の進化の過程がひと目でわかる模型など百点以上の展示が人気を集めました。



県内の小・中・高校生を対象にした第12回鹿児島県愛鳥週間作品コンクールの作品展示が園内ゲート前と類人猿舎通路でありました。巣箱の部 178点、標語の部 236点、ポスターの部 467点の応募がありました。学校賞には大和中学校(巣箱)、出水小学校(標語)、鹿児島商業高校(ポスター)の3校が選ばれました。

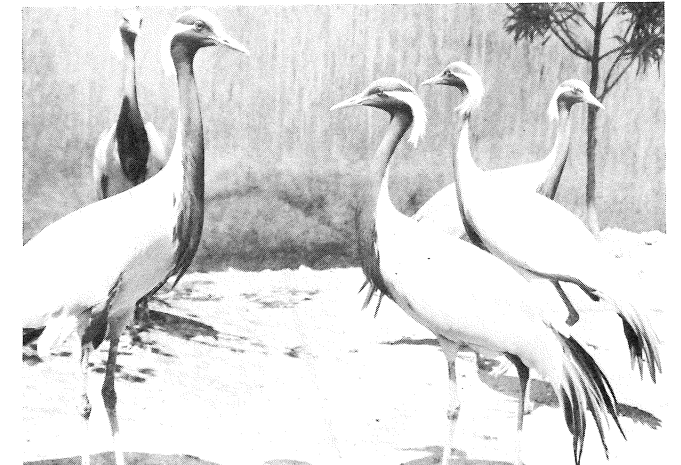
ハイ！担当は私です



カピバラ

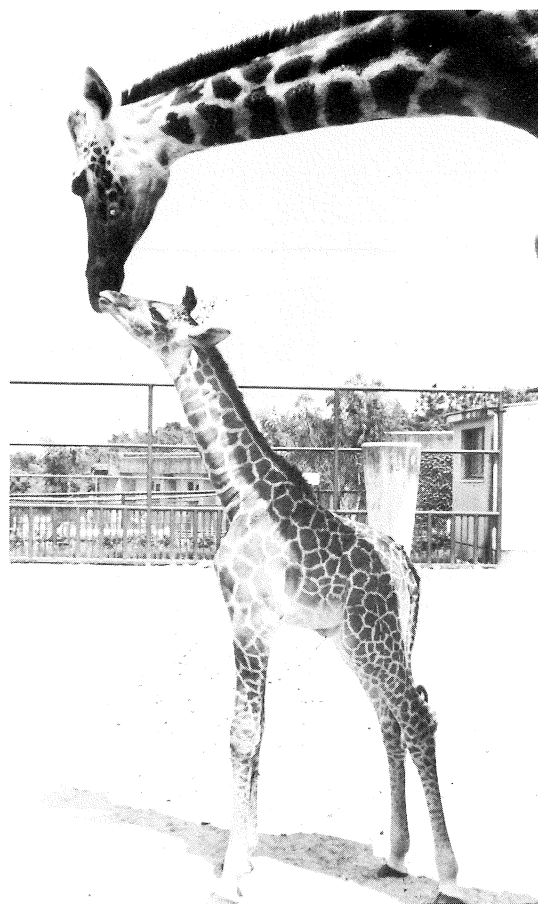
動物公園勤務3年目でまだ新人の方ですが、昨年9月には日本ではじめてカピバラの子3頭をたん生させることができ、日本動物園水族館協会の繁殖賞を受賞した矢先、また今年も1頭の赤ん坊が生まれました。カピバラはネズミなどの仲間ですが、体重は50kg以上にもなり、りんご、パン、にんじんなどが好物です。

飼育係 川畑定光 技師



新しくマナヅル(左)とアネハヅル(右)が仲間入りしました。

繁殖動物コーナー



◀ キリン

一昨年の2頭に続いて父タカオ、母キリコ
の間に5月15日身長2mのジャンボな男の子
が生まれました。生まれて1時間後には立ち
上がり、母親の乳首に吸いついていました。
また6月にはもう1頭の母親ナガコも出産す
る予定で当園のアフリカ園もにぎやかになりま
す。

▼ カピバラ

5月7日、出生時の体重2.7kg、泳ぎが得
意で昨年9月生まれた3兄弟を合わせて7頭
の大所帯になりました。生まれた翌日には青
草を食べ始めた元気坊。



▲ マゲシカ

毎年3、4頭生まれていますが、今年はず
でにニホンジカ、ハナシカ合計8頭生まれま
した。



▲ テナガザル

父は真黒なフクロテナガザル、母
はかつ色のシロテナガザルの混血
児、母親の背中に必死でしがみつ
いています。



乳母犬の乳を飲む黒ひょうのふた子

◀ 3月29日黒ひょうがオスとメスのふた
子を生みました。このうちオスの方が
からだ全体灰色がかっており、白ひよ
うのたん生かと話題になりましたが、
次第に黒ひょう本来の毛色になりつつ
あります。またこのふた子は出産後母
親がめんどうを見なかったために、島
田栄一さん宅の10才のスピッツが乳母
犬となりしばらく犬の乳で育ちました。
その後40日で肉を食べるようになりました。
出生時は両方とも400gでした。



産卵したソデグロヅル
(国際ツル財団飼育場にて)

◀ 昨年10月、アメリカウイスコンシン州にある国
際ツル財団に送られた当園のソデグロヅルが、5
個の卵を産んだという報告をもって、ツル財団の
ザントー女史がこのほど山之口市長と平川動物公
園を訪れました。卵は現在ふ卵器の中で暖められ
ているとのこと。このソデグロヅルは日本に
1羽しかいなかったものを、繁殖のため3年間の
契約でツル財団に貸しているもので、2年後には
ヒナと一緒に鹿児島に帰ってくるようになってい
ます。



ザントーさんの説明に聞き入る職員

◀ 5月9日当園を訪れた国際ツル財団理事のザ
ントーさんは園内を見学後、来園したばかりのマ
ヅルを使って人工授精の実習をひろうしました。
国際ツル財団は1971年に設立され、現在世界中に
生存する15種のツルのうち14種類を飼育しており
その繁殖、保護に力をそそいでいる団体です。ソ
デグロヅルはその中でももっとも数少ない貴重な
種類で現在北アジア地方に300羽ほど生息してい
るといわれます。

動物公園の顔



たぬき (Raccoon Dog)

(食肉目イヌ科)

夜行性で性質はおく病であるが、伝説、昔話の主人公としてよく出てくるように昔から我々日本人になじみ深い動物である。肉食を主とした雑食性で何でもよく食べ、寒い地方のものは冬季に穴ごもりするのもおり秋には体重が50%も増加する。体重は5kg位で妊娠期間は約2ヶ月。



※平川動物公園で消費する餌の種類と量 (1ヶ月分, kg)

さつまいも	5000	魚	1800	配合飼料	1500
青菜	5000	鶏肉	500	ふすま	1000
にんじん	1500	鶏頭	500	大豆粕	700
とうふ粕	600	鶏卵	50	あわ	20
りんご	1500	パン	1300	塩	50
バナナ	300	乾草	3000	牛乳	1000本
みかん	300	青草	5000	ヤクルト	500本
みそ	200	固型飼料	2000	その他合計	40種類

※主な動物の食事 (1頭1日分, kg)

ぞう	きりん	だちょう	ゴリラ	ライオン
乾草 20	乾草 10	配合飼料 2	りんご 2	鶏肉 5
さつまいも 20	青草 10	青草 3	バナナ 1	鶏頭 2
青草 20	固型飼料 6	パン 0.1	みかん 0.5	
ふすま・大豆粕 10	にんじん 2		パン 0.5	
にんじん 3	ふすま 1		きゅうり 0.1	
固型飼料 5	大豆粕 1		レタス 0.5	
みそ 2	その他		ねぎ 0.1	
りんご 2			牛乳 500cc	
その他			ゆで卵 3個	
			その他	

表紙題字

山之口鹿児島市長

ひらかわ No.15 昭和53年6月1日発行 第15号
 発行所 鹿児島市動物公園協会
 〒891-91 鹿児島市平川町5669-1 TEL 0992(0)2326~8
 発行者 山之口安秀
 編集者 坂元種夫

撮影 梶原純一・酒匂 猛・森山郁夫